

報 告 書

2011年3月31日

新政会代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、会費負担を伴う政務調査についてご報告します。

1 支 出 先	一般社団法人 静岡県中部未来懇話会
2 支出内容 及び金額	第27期静岡ニューメディア研究会・しずおか経営戦略セミナー) 会費 ¥ 10,000
3 開催日又は 支払日	平成22年9月～平成23年3月(10回分支出) 平成22年 4月 28 日支払
4 目 的	各界の著名人のタイムリーなテーマでの講演を静岡市内で聴講できるので、費用対効果も高いし、広い視野の情勢分析等の話を伺い、ヒントを得て、施策に繋げたいとの思いで参加する。又、伝統ある静岡ニュービジネス研究会が主催するので、人材ネットワークの広さによる、経営者の感覚、組織のリーダーの物事の捉え方などさまざまなリーダー像に触れて、リーダーの資質とは何か・いま何が必要か・比較検討できればの思いを目的に参加する。
5 内 容	(調査事項・調査結果を具体的に) 各回、それぞれに、何らかの示唆に富んだもであったが、特に、印象に残った内容を報告したい。 「ブレークスルーを実現する全体最適の戦略と戦術」 ゴールドドラット・コンサルティング ディレクター 岸良 裕司氏 全体最適の問題解決理論TOC(制約理論=経営コンサルタントで物理学の権威・ゴールドドラット博士が開発した組織と個人に必須の“自己改革の方法論”)あらゆる産業界、行政改革で実践し、活動成果の一つとして発表された「三方良しの公共事業」は、博士に絶賛を浴び、07年国策として採用されている。と、始めに紹介されたが、なかなか、理解できるような内容なのか不安に思いながら傾聴。①つながりとばらつき(制約理論)。一か所に取り組むのと、全体を改善するのでは、一か所に取り組む方が効果的だ。システムにつながり・ばらつきがある場合には、一番弱いところに取り組むと全体最適になる。いちばん弱いとこ

	<p>ろが、コンストレイント（制約）で、これに取り組めば、全体が最適になる。これが、制約理論。ある対立を考えてみる。「幸せでいる」ためには、「安全を確保する」という考え。そのためには、「変えない」ということと、「幸せでいる」ためには、「チャレンジをする」考えもある。そのためには、「変える」ということもありうる。この両者はとは対立する？ことなのか。多くの人は変える派。相手を変えない派だとかなかなか難しい。しかし、安全であればチャレンジできるのですから、「安全を確保する」とことと「チャレンジする」ことは対立しないのだ。これは、行動するレベルで対立するのだ。②状況を「変える」には、「何を」「何に」「どうやって」を明確にする必要がある。が、明確になっていないことが多い。③「変える」と「変えない」の対立。「安全の確保」と「チャレンジ」は対立しない。安全確保のために何故変えないのか？理由は変えるのにリスクが大きいし、元々、人は、変化に抵抗するものだからだ。つまり、変化は悪いものの意識・思いこみがある。これは、リスクを伴った行動・たとえば宝くじを購入したとして、高額当選すれば、それを受け取り、生活の変化を生みだすこともある。など、思いこみを解消すれば、人の行動も変化するということだ。行動することで、いい結果もあり得るということだ。これは、変えることで何故、安全確保できなくなると考えるのかを解決すれ場、問題は解決するのだ。で、ゴールドラット博士は、手段に惑わされず、本当に何をしたいのか、安全を確保しながらチャレンジする方法は無いのかを考えるという。両立できないと考えるのが思い込みだと指摘する。両立のカギ、懸念事項を徹底して聞くことだ。抵抗勢力の抵抗の言葉をコンセンサスを作る時の、協力の言葉に変えていくことだ。④戦術と戦略。戦略は「何のための」質問の答えにするもので、戦術は、「どのようにして」の質問に答えるものだ。戦術と戦略は、表裏一体。トップから現場まで必要なことだ。</p>
<p>6 成果・市政への反映等</p>	<p>いずれの講師の話も、言われていることは、頭では理解でき、即、実践すれば、市制は変化する！と思うのだが、この巨大な組織は、そう、簡単には動けないのだと思う。民意も、変化には、かなりの思い込みが伴う。また、市制運営の指針・総合計画は、すべての領域に渡るので、簡単ではない。また静岡の風土、現状維持の思い込み・穏やかな気質が変化を好まないように思うが、変えるべきは変えていかなければならない。たとえば、開発と維持。地域の活性化には、道路整備や区画整理、企業誘致、など目に見えて、ハードの開発も必要だが、大局賛成でも小局反対が起きうる。もちろん、市民目線無しにはあり得ない話ではあるが、リーダーの考えの標示の仕方も大事なことだ。この政策を進めていけば、このような成果「良いこと」が生まれます。だから、このような方法で、進めていきますので、ご理解を頂きたい。などの説明が足りないと思うのだ。このところ、地域説明会やパブリックコメントなどの、市民の声を伺うシステムはできているようだが、その行われていることを知らせる方法がもう少し必要なので</p>

はないかと思う。いかんせん、市民の声とするには、数字的に少なすぎる。また、マニフェストで進める政策は、数字が達成していれば、まず評価の対象ではあるが。そもそもその数字がどうであったか等の議論はないがしろになりがちだ。変化を嫌う集団の意向は入らない傾向だ。このセミナーは、もともとリーダーの在り方などが大きなテーマであるが、戦略を考えるのは、現場でもあるということが印象に残った。我々の、政策提言時に、その思いをいかに反映できるかが重要なことだと再認識している。

その他の内容だが、

「電機自動車と太陽光発電による“燃やさない文明”の提言」

東京大学総長室アドバイザー 村沢 義久氏

の地方活性化の切り札となる話。耕作放棄地での太陽光発電提言はとても興味を持てるものだった。放置竹林などで悩む静岡市のヒントになりそうだ。21世紀の産業革命のキーワードは、燃やさない文明!という言葉をかみしめた。

(注)

- 1 この別紙は、参加した会ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。